

最終指摘（案）：

施策「3-3-1 文化芸術や地域ブランドなどを活かした観光魅力づくりの推進、

5-2-1 市民が多彩な文化芸術に親しむとともに、自ら作り上げる文化活動の振興」関係

最終指摘（案）1 札幌市の統一的なブランドイメージづくりと効果的な発信について

札幌市では平成24年1月に「魅力都市さっぽろシティプロモート戦略」をつくり「笑顔になれる街」という都市の姿を目指すため、各部局において関連する各種事業を実施していることが確認できた。

しかしながら、戦略の中に位置付けられている「3つの基本方針」はかなり抽象的であり、ヒアリングを行っても、具体的にどのような戦略を持って進めて行くのか明確に示されなかった。さらに、札幌市で開催されている各種のイベントは、個別にはそれぞれうまくいっているという印象を受けるが、札幌市を今後どのように売り込んでいきたいのか、札幌市の統一的なブランドイメージは何か、ということについても明確な説明がなされなかった。

今後この戦略に基づいて、国内外の観光客を誘致するためには、札幌市の優位性や強みを今一度明確化し、それを踏まえた統一的なブランドづくりを進め、国内外へ発信していく必要があると考える。

については、シティプロモートの推進に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
1	シティプロモート推進費	国内外から人を呼び込むため、札幌市が持つ観光や産業における優位性や強みを具体的に改めて洗い出すこと。それらの優位性や強みを踏まえて、札幌市の統一的なブランドイメージ作りを進め、効果的に外部に売り込むような取組を行うこと。	政) 政策企画部

最終指摘（案）2 サッポロスマイルのPRについて

サッポロスマイルのロゴは、札幌は笑顔になれるまちであり、日本一魅力あるまちであるということ象徴的に表しており、その取組を広く理解してもらうべく事業に取り組んでいるという説明が所管部局からあった。さらに、ロゴには外（観光客など）向けと内（市民）向けの両方の側面があり、市民自身にも札幌の魅力に気づいてもらいたいという目的も包含されているということであった。

このロゴについては良くできていると評価するが、その目的や活用方法が市民や企業にしっかりと伝わっておらず、ロゴの魅力が十分に発揮できていないという印象を受けた。今後、このロゴの更なる活用を目指すのであれば、市民向け、観光客向けという対象者別に効果的なPRを行う必要がある。

については、サッポロスマイルのPRに関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
2	シティプロモート推進費	サッポロスマイルの目的や活用方法を、市民や企業に明確に示し、市民向け、観光客向けにそれぞれ効果的なPRを進めること。	政) 政策企画部

最終指摘（案）3 市内企業へのサッポロスマイルのロゴの周知と事業の評価について

市内の大多数を占める中小企業へ、サッポロスマイルのロゴの活用について積極的な働きかけが行われていないことが分かった。No. 2 の指摘とも関連するが、市民に知ってもらうためには、大企業のみならず市内の中小企業に周知を図り、活用してもらうことも非常に重要であると考え。

そのために、事業目標をより明確化すると共に、例えばロゴを活用している企業数を指標として設定するなど、事業目標の達成度を図ることができるような複数の指標を設定し、本事業の評価を行う必要がある。

については、シティプロモート推進事業費に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
3	シティプロモート推進費	市内企業（特に中小企業）へサッポロスマイルのロゴの周知を強化するため、事業目標を明確化すること。その上で、事業目標に沿った指標を設定して事業の評価を行うこと。	政) 政策企画部

最終指摘（案）4 ミュンヘン・クリスマス市の新たな指標設定と事業の評価について

ミュンヘン・クリスマス市は、国際理解、そして初冬における集客交流の促進という 2 つの目的からスタートしているということが確認できた。

しかし、今では来場者数が 94 万人という集客交流イベントとしての位置付けが強く、当初の国際交流イベントとしての理念が弱まっているという印象を受けた。現在も、市民がドイツの文化に触れるような取組を行っている事実は把握できたが、国際部が所管する事業であるということも踏まえると、国際交流・国際理解の促進を図るための指標を設定し、事業目的を果たしているか客観的な評価を行うことが必要であると考え。

については、ミュンヘン・クリスマス市の評価に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
4	「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」開催費負担金	国際交流の振興という、ミュンヘン・クリスマス市の本来目的の達成度を測るための指標を設定し、その効果の測定を行ったうえで事業の評価を行うこと。	総) 国際部

最終指摘（案）5 ミュンヘン市における札幌市のPRについて

ミュンヘン・クリスマス市はミュンヘン市と札幌市の姉妹都市提携30周年を記念し、2002年に始まった。札幌市の姉妹都市の中におけるミュンヘン市の認知度は他都市よりも高く、このイベントによる効果も大きいと考える。また、ミュンヘン市の企業も出店していることから経済的な効果もある。

姉妹都市交流・シティプロモートという観点から考えると、ミュンヘン市で札幌市を継続的にPRするような取組を実施できれば、ミュンヘン市において同様の効果を発揮することが期待できる。

ミュンヘン市側の事情もあるため、すぐに実現させることは難しいかもしれないが、何らかの形で札幌市のPRという取組を実施できないか検討を進めるべきである。

については、ミュンヘン市における札幌市のPRについて、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
5	「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」開催費負担金	札幌市で行うミュンヘン・クリスマス市のように、ミュンヘン市において札幌市をPRする取組について検討すること。	総) 国際部

最終指摘（案）6 イベントの質的な向上と新たな指標設定について

各イベントについて来場者数が増えていることは素晴らしいことであるが、量的な拡充をどのように本来の事業目的に沿った質的な向上につなげていくのかという点に関して、検討が必要であると考えます。

また、現在は個々のイベントの成功や来場者数にとらわれており、本来の事業目的に対する意識が薄いという印象を受けた。各イベントにおいて、例えば、来場者の目的を把握すると共に、来場者がその目的を果たすことができ、満足したのかというアンケートを取り、分析を行うなど、本来の事業目的の達成度を示すことができるような新たな指標の設定を行うべきである。

については、イベントの質的な向上と新たな指標設定に関して、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
6	「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」開催費負担金	各イベントについて、来場者の増加だけではなく、本来の事業目的に沿った、イベントの質的な向上を図るとともに、本来の事業目的の達成度を示すことができるような新たな指標の設定を行うこと。	総) 国際部
	さっぽろ雪まつり事業費		観) 観光コンベンション部
	さっぽろ雪まつり魅力アップ事業費		観) 観光コンベンション部
	サッポロ・シティ・ジャズ事業費		観) 文化部
	500m 美術館運営費		観) 文化部

最終指摘（案）7 イベントへの関与のあり方について

大通公園で行われている各イベントについて、札幌市は事務局の運営をはじめ補助金や負担金という財政的な関与を行っているが、こうした関与をこれまで見直してきていることが確認できた。

しかし、本来、こうしたイベントは民間で行うべきであり、立ち上げ当初は行政の支援が必要かもしれないが、一定の期間が経過した後は、行政の関与は必要最小限とすべきである。

ただし、各イベントには様々な事情があることも推察され、一定の関与が必要な場合も考えられる。その場合には、例えば、イベントの補助対象事業を限定するなど、公的関与を行う部分を明確にし、関与する理由がはっきり示されるような工夫が必要であると考えられる。

については、イベントへの関与のあり方について、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
7	施策全般 (公的関与)	大通公園等で開催される各イベントの実情を踏まえ、民間の関与をより強めるなど、公的関与のあり方を見直すこと。	総) 国際部 観) 観光コンベンション部 観) 文化部

最終指摘（案）8 博物館の検討について

博物館については今年度中に基本計画を策定する予定であることが確認できた。今後、博物館の検討を行う際には、単に収蔵品を展示する場ということではなく、創造都市さっぽろを代表するような施設と位置付けられるような博物館を目指すべきである。

そのためには、札幌にいるクリエイターやプロデューサーたちと連携し、博物館の展示や運営の手法を検討することが必要と考える。また、観光客が博物館を見るために札幌に来るといような、プロモーションができる博物館にすべきと考える。

さらに、検討の際には、財政状況が厳しいことを踏まえ、統合後に空いた学校を活用するなど既存の公共施設の活用あるいは施設の集約化という観点も重要である。

については、博物館の検討にあたっては、以下の事項に取り組むこと。

No	指摘対象	指摘内容	所管部
8	博物館建設構 想推進事業費	博物館の検討にあたっては、単なる展示を行う場ではなく、創造都市を標榜する札幌市として、創造性という観点を踏まえた博物館づくりを行うことができるような体制を構築するとともに、観光施設としても位置付けられるような博物館を目指すこと。また、博物館を設置する場合には、既存施設の活用や施設の集約化などにより、費用の縮減を図ること。	観) 文化部
	次世代型博物 館計画策定事 業費		